

横須賀市追浜地区の地域再生まちづくりに関する提案

追浜「宝の地図」を創ろう！！

地理関係と歴史



鷹取山の様子



横須賀市 追浜地区の位置



追浜海岸と夏島

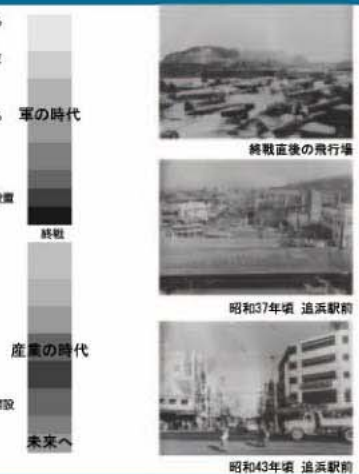


航空隊本隊庁舎



湘南鉄道・追浜駅

1887 (明治20) 年	夏島に伊藤博文の別荘が完成。明治憲法が起草される町村制施行。追浜地区に浦郷町ができる。
1889 (明治22) 年	海軍水工機務所として、追浜海岸一帯を海軍が接収
1910 (明治43) 年	浦郷町は田浦町となる
1914 (大正3) 年	横須賀海軍航空隊開設 (通称「追浜航空隊」)
1916 (大正5) 年	追浜に飛行場を造成するための埋立工事が始まる
1918 (大正7) 年	開港大震災
1923 (大正12) 年	追浜飛行場完成 (約70万平方メートル)
1926 (大正15) 年	明治憲法起草 遺蹟記念碑完成
1930 (昭和5) 年	湘南電鉄 (現「京浜急行電鉄」) 追浜駅開業
1933 (昭和8) 年	横須賀海軍航空隊に飛行予科練習部 (「予科練」) 設置
1945 (昭和20) 年	田浦町は横須賀市に編入される
1946 (昭和21) 年	「横須賀市所在旧陸海軍主要施設転用
1948 (昭和23) 年	この時まで追浜地区に進出した企業は米軍より旧海軍航空技術隊が日本政府に旧軍港施設転用の制定、軍施設の転用進む
1949 (昭和24) 年	日産自動車工場竣工
1950 (昭和25) 年	西武鉄道、湘南農取宅地造成工事に着手
1962 (昭和37) 年	住友重機工業追浜造船所操業開始
1967 (昭和42) 年	「夏島貝塚」国指定史跡となる
1971 (昭和46) 年	海洋科学技術センター (現「海洋研究開発機構」) 開設
1972 (昭和47) 年	追浜駅前第一街区市街地再開発ビル完成。西友退出
1973 (昭和48) 年	横須賀スタジアム開設
1985 (昭和60) 年	追浜こみゅに亭とファイナリー完成
1997 (平成9) 年	
2004 (平成16) 年	



軍の時代

戦後

産業の時代

未来へ

まちの現状

京浜急行電鉄 追浜駅

1930年4月1日開業。数年前のダイヤ改正により日中は鈍行普通列車の停車のみとなった

主な2つの商店街

高度経済成長期の勢いは無くなり、シャッター通りになってしまった。しかし、現在こみゅに亭1) をきっかけに、シャッターは上がっていくが見える

追浜行政センター

1973年開業。横須賀市 追浜地区における行政出先機関である。公民館を併設しており、住民活動の拠点となっている。図書館も併設している。

貝山緑地

予科練誕生の地の記念碑が建てられている。地域活性化の新たな観光名所とするべく、観光協会が中心となり「杏の里」へ向け杏の植樹を行っている。



日産追浜工場

1997年完成。湘南シーレッツの本拠地として使用されており夏車を中心としてナイターを開催している



(財)海洋技術研究開発機構

1961年操業開始以来、社会貢献や環境保全に対する取組みを積極的に行っている



リサイクルプラザ・アイクル

海洋および地球に関する科学技術の試験、調査、研究を行い、地球環境の改善に関する課題に取り組んでいる



横須賀スタジアム

リサイクル活動の拠点としての役割と環境型都市よすかの象徴となっている

追浜の再生を考える前提として

地元へのヒアリングから このまちの過去ー現在ー未来

- ・戦前は軍に依存、戦後は進出企業に依存するなど、外からの波によって繁栄してきたまち
- ・下請けの海外依存やバブルが弾けたりしたあとは、方向が見えない
- ・ITなどの新しい産業は、横須賀市でもYRPなど内陸に誘致される
- ・今は外からの波を期待できない時代、しかし内側からの動きもない

- ・商店街は店主の高齢化、後継者難などで活気がない
- ・今のところはまだ開いている店舗が多いが、駅から離れるとシャッターが目立つようになる
- ・商店街が商店街の中だけで再生することは無理、地域の資源を生かし、みんなで協働して衰退を食い止める必要がある

- ・湘南農取は昭和40年代の計画的開発による高級住宅地である
- ・しかし住民の高齢化は進み、今後はさらに定年退職後の住民を抱えることになる
- ・住民の様々な滑動の受け皿として、地域コミュニティの期待は高い
- ・住民の交流の場が求められる

地域活動の状況と大学の役割

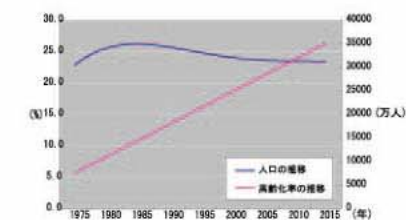
- ・おっぱ まちづくり連絡協議会の結成
- ・地元には業界や地域の取りまとめ団体として、追浜工業会、商盛会、連合自治会、社会福祉協議会、追浜観光協会があるが、それぞれが個別に活動していた
- ・5年前に横須賀市追浜行政センターが中心となって「おっぱ まちづくり連絡協議会」を結成
- ・一つのテーマにつくようになったが、具体的なまちづくり活動をおこなうには至っていない

- ・まちなか研究室「追浜こみゅに亭」の一つの役割
- ・追浜こみゅに亭は、大学の研究室と商店街や地域でまちづくりや各種の活動に興味をもつ人々により構成されているので、具体的なまちづくりの活動に取り組みやすい
- ・しかし、地域にそれらに浸透させるには、自治会町内会等既存の団体との連携や行政との協働も必要である

- ・これからのまちづくりでは、各種の団体、個人の連携が必要であり、追浜こみゅに亭のような緩やかなシステムが、他にも試みられたら良いのではない

追浜再生の方向性

- ・現在の追浜は、工業地帯、住宅地区中心部の商業地区とそれぞれに問題を抱えている
- ・それぞれの地域での問題解決に関わる提案を考える必要があるが、商店街、住宅地、工場地帯が連携をとることで、更に効果的になることが考えられる
- ・ここで具体的な提案は、具体的には追浜工業地帯と湘南農取の住宅地に関するものであるが、それぞれに地域の中での連携を視野にいれて検討している



再生に向けての試み

商店街の空き店舗活用

「まちなか研究室」追浜こみゅに亭の試み
地域に出たゼミ活動とまちづくり

2003年度から追浜のまちを対象とした演習開始
「地域で学び、成果は地域に還元する」
発表会は地元の人々を招いて改善の提案

2003年度の授業の成果を受けて2004年10月空き店舗活用の「追浜こみゅに亭」開設

- ・まちなか研究室として授業に利用
- ・地元のみちづくり活動の拠点
- ・研究会、イベント等による地域の交流の場
- ・ワイン醸造、産直事業等で施設の維持管理費を負担



再生前の空き店舗 追浜こみゅに亭前景 まちなか研究室の様子

なぜワインか？

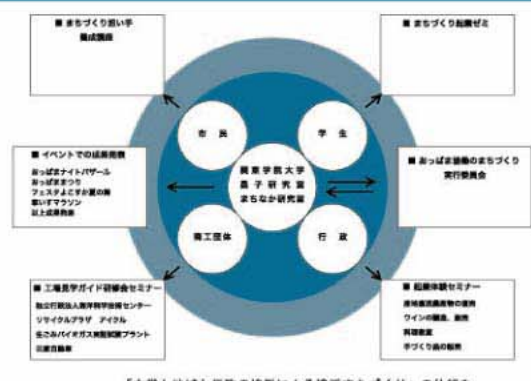
背景 空き店舗活用は自治体の助成金がなくなると、存続が難しくなる例が多い
続けるためには自前の収益システムが必要

「横須賀おっぱまのワインの発想」

- ・規制緩和とぶどう畑がなくてもワイン醸造出来るようになった
- ・横須賀は最近海軍カレーを名物にしているが、追浜地域には名物(特産品)がない
- ・地元の海洋研究開発機構は海洋深層水の研究で有名だが、地元で活用されていない

ゼミで学生から提案

「海洋深層水を使ったワインを商店街で醸造・販売」
醸造免許の取得等苦労はあったが2005年5月ワイン完成



追浜「宝の地図」を創ろう！！

ゼロエミッション地域化計画

現状

- 横須賀市と住友重機械工業が共同で研究を行い、生ゴミから得たバイオガスを使用してゴミ回収車を走らせている（「バイオガス実証試験プラント」）
 - ただし現状はコンスタントに生ゴミを確保することが困難な為、生ゴミ不足である
- 横須賀市は2004年度から事業系ゴミの回収をやめている
 - これを受けて現在追浜の商店街ではゴミの回収を業者に委託している

趣旨

- 商店街とバイオガスプラントの相互のニーズをうまく利用し、相乗効果を図ると共に追浜の地域活性化に役立てたい

提案

「Glory - Oppama」

目的

- 商店街の生ゴミをバイオガスプラントに提供することで、商店街と工場地帯を結びつける
 - バイオガスプラントの実用化を一層推進し、有機物資源の地域内循環を促進する
 - そこで得たバイオマスエネルギーを産業観光に利用し、さらなる好循環を図る
- システムイメージ



今後の展望

- 追浜工場地帯は産業転換により現在空き工場が目立ち始めている
- しかし、この「Glory - Oppama」が実用化されればバイオガスプラントが起爆剤となり、エコタウン等の新たな産業が生まれ、再び追浜工場地帯は活気を取り戻す

それぞれのメリット

	メリット
商店街	<ul style="list-style-type: none"> 可燃ごみの回収費用がかららない 観光客が再帰率を高める
バイオガスプラント	<ul style="list-style-type: none"> 生ゴミ不足の解消 プラントの稼働率向上
産業観光	<ul style="list-style-type: none"> プラントで発生したバイオガスを燃料としたバスで走るツアーを行う

産業観光化計画

現状

- 日産自動車、住友重機、海洋研究開発機構など日本有数の企業、研究機関がある
- 夏島貝塚、帝国憲法起草の地の碑、第三海堡遺構など歴史的遺産がある
 - これらに関心を持つ市民は多い 企業、研究機関にも公開の意向はあるが一般市民との接点がない
 - こうした「地域資源」は臨海部に散在し、交通が不便であるため訪れたことのない市民も多い すなわち、せっかくの「地域資源」が活かされていない

趣旨

- 臨海部に散在する追浜の地域資源をつなぎ、歴史や文化を含めた「産業観光」コースを設定する
- これにより追浜地域の内外を問わず、多くの人に追浜の魅力を知ってもらい、地域の活性化につなげる

提案

「追浜トレジャーハントツアー」

コースの案

追浜駅→日産自動車（2時間）⇒海堡ラウンジで休憩（2時間）⇒海洋研究開発機構（2時間）⇒夏島貝塚、帝国憲法起草の地記念碑見学⇒追浜こみゆに亭で休憩後解散

ツアー概要

- 事業主体：追浜観光協会を中心に追浜工業会や京浜急行電鉄、JTB、地元商店会等の協力を求める
- 募集人員等：1回20名程度 ボランティアのツアーガイド同行
- 地元の協力：ボランティアツアーガイド養成、地元レストランによる昼食提供等
- 使用車両：日産シビリアン（※CNG車両）
 - ※CNG車両…圧縮天然ガスを燃料とした低公害自動車 この計画では「Glory Oppama」のバイオガスプラントで製造したバイオガスを燃料とすることを旨とする

海堡ラウンジ —土木遺産「第三海堡」の保存・活用—

- 第三海堡—三浦半島観音崎と房総半島富津岬の間に築かれた海上要塞 船舶航行安全のため2000年に撤去 現在追浜展示場に保管されている
 - ただし期間は今年8月まで その後は移動が海へ廃棄
 - 第三海堡は土木遺産として価値が高く、地元追浜での保管要望も強い
- 一市有地に移し、「海堡ラウンジ」として保存・活用をはかる
- 意義 土木遺産の保存・活用事例として産業観光の目玉になる
- 課題 かなりの重量なので短距離でも陸上輸送が困難



第三海堡遺構（説明台）
海堡ラウンジ概要
・対象遺構
観音所（12.8m x 11.8m x 5.2m）
深砲台（17.6m x 9.6m x 9.8m）
・新築目的 夏休、休憩、観覧

DRT導入システム

現状

- 湘南鷹取地区で深刻な高齢化が進んでいる
- この地域は昭和40年代に急勾配な坂の上に開発された住宅街である
- バスの運行は朝と夕方に密で、昼、夜は極端に少ない
- バスは住宅地の騒音問題などで本数を増やすことができない



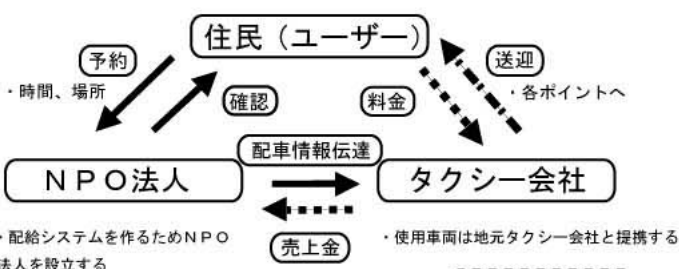
ちよつとキツイなあ…
ねえ、母さん…

趣旨

- 坂道が多いので特に高齢者・障がい者にとっては活動しづらい場所である
- 外出機会が減るといことは出会いの場、活動の場が減ることである
- コミュニティ活動や通院、引きこもり防止などの支援として、新しい生活交通システムを提案する これが「まち」全体の活性へと繋がればさらに良い

提案

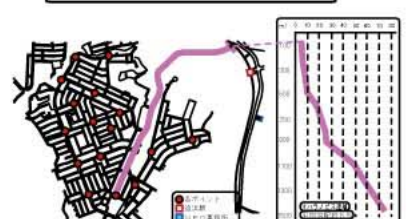
新しい生活交通システムとしてDRTを導入する



運営

場所	追浜こみゆに亭
時間	9時30分～11時30分
距離	往復4km
料金	300円均一
収入	1回105円（1人）
提携運営費	45.3万/月
事務職員費	39万/月
予算	初年度 1165万円
	2年目以降 1137万

対象エリア・送迎ポイント



湘南鷹取で「農」コミュニティ

現状

- 湘南鷹取地区では家庭菜園を楽しむ人が多い
 - ⇒アンケートによれば地域に農園があったら耕作したいとの要望も
- すっかり市街化された追浜だが、湘南鷹取周辺には農地も残っている
 - ⇒小学校には学校農園のあるところも

趣旨

- 地域に残された農地を生かし、「農」を媒介としたコミュニティ活動を！
 - ⇒今後増加する定年退職者にも地域で活動する場を提供する
 - ⇒農業体験を通して、様々な年齢層の交流をはかる
 - ⇒農産物の加工や調理を通して、豊かな地域生活を創出する

提案

湘南鷹取にさまざまな「農」のコミュニティを

- 地域と連携した学校農園とする
 - 現在学校の農園を持つ小学校では地域との連携がない
 - 地域との連携をはかることで、多世代交流が図れ困れ子供の子供の安全にも貢献出来る
- 地域に貸し農園をつくる
 - 農家が耕作出来なくなった土地を、貸し農園として提供してもらう。空いている宅地を貸し農園として提供してもらう
 - 現在の市民農園と同様の方式として、市が土地を借りて貸し出す
 - 住民有志が土地所有者と話し合っ耕作地を借りる
- 「農」を生かした公園整備をする
 - 地域の公園を再整備し「農」を生かした公園にする
 - 現在地域管理になっている公園もあるが、あまり使われていない。計画にあたっては横須賀市の事例を参考にする

農園候補地

